

よい会社をつくろう よい経営者になろう よい経営環境をつくろう

9

September  
2018

山形県中小企業家同友会

月刊 同友

# やまがた



インターンシップ&全国総会分科会報告

山形大学 松坂暢浩准教授



よい会社 よい経営者 よい経営環境をめざす  
中小企業経営者の全国組織

2018年度スローガン

「人を生かす経営」の総合実践で  
地域と日本経済の発展に貢献しよう

# 山形大学と連携した インターンシップの取り組みで 若者を地域に残そう



山形同友会では山形大学と連携して低学年インターンシップに取り組んでいます。この取り組みは2014年に学生20名、受入企業13社でスタートし、山形大学の主に1年生を8月中旬～9月中旬にかけて3日間受け入れています。当初は共同求人活動の参加企業や新卒採用をしている企業に、若者を受け入れる風土をつくらうと呼びかけてきました。そこから学校との就職懇談会、例会報告で興味を示した企業に、経験豊富な企業のプログラムを開示し、イメージをつかんでもらいながら広げてきました。4年目の今年は、学生43名、受入企業31社にまで広がってきています。このインターンシップで企業側は学生を受け入れることにより社員教育のチャンスとなり、学生側は働くことの楽しさに触れ、自立へのきっかけとなります。

この取り組みは全国的にも注目され、7月5日、6日に宮城県にて開催された中同協定時総会第5分科会で、(株)サニックス 佐藤啓社長と山形大学 松坂暢浩准教授が山形大学との低学年インターンシップの取り組みによって学生・社員・会社がどう変わっていったかについて報告しました。今回はその中で、山形大学低学年インターンシップの概要・受入企業側のメリットについて説明した松坂氏の報告を掲載します。ぜひ学生の受け入れに手を挙げただけ、教育機関と連携してインターンシップの推進に取り組みましょう。

報告者 山形大学 准教授 松坂暢浩氏

## インターンシップ推進の背景

現在、国を挙げてインターンシップの推進が図られています。国が言っているインターンシップは、正規の教育課程のインターンシップのことを指しています。条件として、授業として単位が出るかどうか。また大学と企業が協働し、事前・事後指導の実施や教育効果が図る仕組みが整備されているかどうかなどです。そしてもう一つ、期間が原則5日間以上であることです。私はここが課題と感じていました。急に5日間や1ヵ月のインターンシップに参加することは学生にとって厳しいのではないかと、また受入側も負担を感じているのではないかと思いました。

そこで本学と山形同友会では期間を3日間としてインターンシップを行っています。つまり最初のハードルを下げて、お互いが参加・受入しやすくする、お試し版のプレインターンシップという考え方です。まず慣れてもらった上で、今度は中長期のインターンシップにステップアップしてもらおうという方法を考えました。

## 中小企業が導入するメリット

次に中小企業がインターンシップに取り組むメリットですが、企業調査を通して、採用には結びつかなくとも採用力の強化につながっていることが分かりました。ある企業は、採用時に自社の魅力を学生に伝えようとしても漠然としていたそうです。しかしインターンシップ受け入れにあたって、自社の魅力を全社的に考える機会となり、改めて学生に伝える魅力は「ここだ」と気づくことができたのでした。もう一つは、人材育成としてインターンシップを活用するという視点です。ここが一番のポイントになります。社員の能力向上や実際の仕事の改善につなげていくために、人材育成のプログラムの一つとしてインターンシップを組み込めるのではないかと考えています。



## 山形同友会と山形大学の取り組み

山形同友会と山形大学とのインターンシップの取り組みが様々な機会に注目されるようになりました。これは、おそらく一般的なインターンシップと違うからだと思います。まず対象を1年生に限定していることです。また期間を3日間にしています。そして受入先を中小企業に限定し、同友会の加盟企業のみ派遣しているのも特徴です。ちなみに受入先のマッチングは、学生の希望を取らず、ランダムに私の方で決めています。

中小企業に限定した理由は、学生が広い視野で進路選択を考えてもらうには、地域の中小企業を知ってもらうことが、教育上も非常に有効ではないかと考えたからです。特に同友会に限定した理由は、理念や経営方針がしっかりしている企業様をお願いしたかったからです。また、人材育成に理解があり、新卒採用をしている(これからしていきたい)企業で、熱い想いを持って地域でビジネスをしているところという条件を考えますと、やはり同友会ではないかと思い相談に行ったという経緯があります。

本取り組みは、当初学生20名受入企業13社でスタートし、4年目となる昨年は学生43名受入企業25社に学生も受入企業も増えました。今後も協力し拡大を目指していきたいと考えています。

成果報告会は、同友会の例会形式を取り入れ、学生の成果発表と発表後に車座になってディスカッションを行っています。去年は、25社中24社に参加いただきました。学生のリアルな声を聞ける機会としても、うまく活用いただけていると思っています。

## 成果と課題

学生の成果報告の中で「中小企業のインターンシップに参加してどうだったか？」を聞くと、中小企業のイメージが変わったという学生が約8割いました。コメントには「以前の中小企業のイメージは人数が少ない、休みがない、給料が少ないなどマイナスなイメージが多かった。今は地域に貢献できる点や社員同士の距離の近さなどプラスな

イメージを持つようになった」など、ネガティブなイメージがポジティブに変わったことが分かりました。また参加前後の効果測定においても、キャリア意識が高まり、自分自身の将来に対する考え方が変わり、行動が変わっていたことが確認できました。

ここでもう一つ気になるのが、参加した学生のその後の進路、就職先はどうだったのかという点です。そこで初年度参加した学生を対象に追跡調査を行いました。20名のうち進学等を除き11名が就職。そして、就職した学生の半分は中小企業に入社したことが分かりました。しかも山形同友会の企業に1名入社をしていました。またヒアリング調査も行いましたが、中小企業に就職を決めた理由に、本インターンシップの影響があったことが確認できました。

最後に受入企業のアンケート調査結果について報告したいと思います。ポイントは、本インターンシップを社員教育の一環として捉えている企業が多いということです。また受入れにより社内に変化があったと約7割の経営者が感じていたことが分かりました。変化に関する自由記述を見ると「若手社員のプレゼン能力が豊かになった」「社内の表示やマニュアルを自主的に作るようになった」など目に見える形での変化を確認できました。

具体的な事例の一つをご紹介します。昨年ある測量会社に栄養士コースの学生をお願いしました。社長との打ち合わせの中で「自社の社員教育の為に受け入れているので別に学部は関係ない」と言ってくれました。この会社は、学生を指導する担当者が、全く測量の知識がない学生に対して分かりやすく魅力的に自分の仕事を伝えるにはどうしたらよいかを考え、それを社長がチェックしてプログラムを作っています。採用と直接結びつけていないからこそ、人材育成としてうまく活用いただけている事例ではないかと思っています。

私はインターンシップを通して、地元の中小企業と大学が、学生と社員の育成を一緒にやっていけるのではないかと考えています。これは同友会の「共育」の考え方につながる部分だと思います。そして、より魅力ある会社になるチャンスがインターンシップにあると考えています。



# 企業訪問

## 社会復帰を応援したい！ リハビリステーションを開設

(株)よねき (山形支部)



山形市で介護サービス事業を展開する(株)よねき(米田真也専務取締役・山形支部会員)では、東北初となる保険外での脳梗塞後遺症のリハビリサービスを仙台市にオープンしました。今回は米田専務より同社の取り組みについてお聴きました。

### 家庭優先の介護事業所

(株)よねきの前身は薬屋さん。ドラッグストアの波が全国に広がる中、危機感を覚えた米田専務の父である前社長が、介護事業に進出を決意。2002年に介護の仕事をしてきた米田専務の経験を活かし、ケアマネジャーの事務所を開設します。そして、その翌年には介護用品のレンタル・販売、2008年には小規模多機能型居宅介護施設「米喜家」、2011年には介護付有料老人ホーム「せなみ米喜家」をオープンします。



「米喜家」を訪問すると、清潔できれいな施設で、スタッフが笑顔で迎えてくれます。利用者の方が快適に生活する場として清掃・衛生管理には特に力を入れています。また、スタッフのほとんどがお母さん達です。子どもの具合が悪いなど、家族に何かあればすぐに駆け付けられる仕組みにしています。これは前社長が「家庭がうまくいかないと仕事もうまくいかない。家庭が優先」と常々話していたことが、社風となって息づいている証ともいえます。「介護離職者が多いと言われる業界にあって、辞める方が非常に少なく、感謝している」と米田氏は語ります。

### 保険適用外のリハビリサービス

今年6月、同社では新たな取り組みとして「脳梗塞リハビリステーション仙台」を仙台駅東口の榴岡にオープンしました。

脳卒中の患者が増えている現代にあって、脳血管障害のリハビリ治療は保険適用期間が最大で180日。治療途中で退院や制限を受けるケースもあります。また、介護保

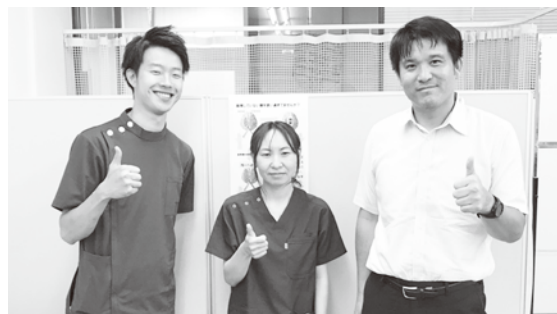
険制度のサービスは高齢者向けで社会復帰をめざす40代～60代の方々の要望に答えられていないといいます。

そんな背景から首都圏では保険適用外のリハビリサービスが増えています。ご自身も40代となった今、そういう方々の社会復帰を応援したいと、短期集中型のリハビリステーションをつくりました。保険外での施設は東北では初めてとのこと。このリハビリステーションのインターネット開設時には、たった1日で200件の検索があったことからニーズの高さがうかがえます。

保険適用外の基本メニューは60日間プランですが、遠方の方が利用しやすいように短期集中プランもつくりました。山形県から通っている患者の方々もいます。同社では、一人ひとりの個別計画(ステップアップシート)をつくり、理学療法士がマンツーマンで治療を行っています。このシートを活用することによって、見える化を図り、効果を測定しています。そして、今後はアフタープランをデイサービス事業者とコラボして行っていく予定です。

### 自信を持って働ける施設づくり

米田氏は「介護が必要にならない方がいい人生を送れたといえる。だからこそ、利用された方々から会えて良かったという言葉が何よりもうれしい。介護の仕事はやりがいがあるが、ネガティブなイメージもある。来年4月にオープンするあかねヶ丘のサービス付き高齢者向け住宅はゼロエネルギーの建物で、スタッフがここで働いていると自信を持って言えるように取り組んでいきたい」と、これからの想いを述べました。



# 9月例会のご案内

・どの支部の例会にも参加できます。・月に一度は参加しましょう。

## 山形支部

### 永続は感謝の心とイノベーション

2018.9.27(木) 18:30~21:00

場所: 山形テルサ 研修室A

山形市双葉町1-2-3 ☎023-646-6677

報告者: (株)エスパック 代表取締役社長 佐藤敬一氏

山形支部では今年度「老舗企業に学ぶ」をテーマに例会を開催しています。9月例会では、創業から間もなく100年を迎える(株)エスパック 代表取締役社長 佐藤敬一氏より、「永続は感謝の心とイノベーション」と題してご報告いただきます。

企業の寿命が長いということは、危機的状況を何度も何度も乗り越えてきたという事に他ならない。大きな壁を乗り越える時に必要だったものは、能力だったのだろうか? 経験だったのだろうか? そんな諸々をお話し頂きます。

他支部会員、ゲストの方も大歓迎です。ぜひ、お誘いあわせの上ご参加ください。

## 寒河江支部

### 新しい雇用の創造(仮)

2018.9.27(木) 19:00~21:00

場所: 寒河江市技術交流プラザ 第2研修室

寒河江市中央工業団地153-1 ☎0237-86-1991

報告者: (株)ラポールヘア・グループ 代表取締役 早瀬渉氏

詳細は別途ご案内致します。

## さくらんぼ支部

### 誰もが心配なく働ける企業を目指して ～経営方針から導き出した新事業～

2018.9.26(水) 18:30~21:00

場所: まなびあテラス 講座室

東根市中央南1-7-3 ☎0237-53-0223

報告者: 齊加商店 代表 齊加義三氏

6年前、17期にて経営指針をつくる会を受講した齊加代表。「何のために」を明確化したことで自社の変革が始まります。自社の課題を洗い出し、ひとつひとつ改善を進め売上は倍増したものの、想定以上の原材料高騰など外的要因もあり利益は横ばい。自社を強固な組織にするには何が必要か? 自社分析を通し「強み」を確認、更なる成長を目指す上で新事業を模索。昨年、中小企業庁の経営革新支援の認定を経て隣接業種に参入。「おいしさの物語をつくることで、笑顔が溢れる未来に貢献する」という思いを掲げ、新たなステージ作りに挑戦する齊加代表ですが、そこには常に同友会での学びが生かされていました。

同友会に参加し続けられたら経営者の本当の仕事を理解し、さらに経営が楽しくなった事例。是非お誘いあわせの上ご参加ください!

## 置賜支部

### 幹部社員が変われば社風が変わる ～社長と共に100年企業を目指す～

2018.9.28(金) 18:30~21:00

場所: アクティー米沢 第2会議室

米沢市西大通1丁目5-16 ☎0238-21-5655

報告者: (株)サニックス 経営企画室室長・総務部長 大江藤之氏

9月例会では、山形支部より働く車の製造業、整備業、板金塗装業などに営む(株)サニックス 大江藤之部長を迎え、「幹部社員が変われば社風が変わる～社長と共に100年企業を目指す～」と題してご報告いただきます。

幹部社員として社長の想いを社員と共に実践していくことに悪戦苦闘する日々。インターンシップ、イケてるマネージャー研究会など様々な取り組みを通して、「自分で考える」ことの重要性に気づき、社員一人一人が自発的に考え行動する会社の風土づくりに取り組んでいます。

大江氏の実践報告から、社長と幹部の関係構築と、共に考え合う社風づくりについて学び、自社経営の変革のきっかけにしましょう。他支部会員、ゲストの方も大歓迎です。ぜひ、お誘いあわせの上ご参加ください。

## 庄内支部

### 人生を逆転する「夢・戦略・感謝」の成功法則 ～弱者の戦略に学ぶ、経営人生計画～

2018.9.19(水) 18:30~21:00

場所: 鶴岡市総合保健福祉センター にこふる

鶴岡市泉町5-30 ☎0235-25-2731

講師: (株)インタークロス/九州ベンチャー大学 代表 栢野克己氏

参加費: 1,000円

あの、栢野克己氏が庄内再上陸!!閉塞感なんかぶっとばせ! 栢野節、炸裂!!

庄内支部9月例会は全支部・外部公開例会として開催されます。

講師には『小さな会社儲けのルール』(2002、フォレスト出版)、『小さな会社の稼ぐ技術』(2016、日経BP社)などのベストセラーで知られる栢野克己氏をお迎えし、中小企業家に必要な思考・戦略をお話しいただきます。定員は60名となりますのでお早めにお申し込みください。例会後には講師を囲む会(懇親会)を開催予定です。詳細は同封チラシをご覧ください。

## 新庄最上支部

### グループ討論を会社に生かそう!

2018.9.25(火) 18:30~21:00

場所: 最上広域交流センターゆめりあ 会議室

新庄市多門町1-2 ☎0233-28-8888

報告者: 田宮印刷(株) 常務取締役営業部門統轄 阿部和人氏

例会で良い報告を聞いてもグループ討論でなかなか掘り下げられない。グループ討論を会社に取り入れたいけれど、社員が発言してくれるか不安……。そんな方は、案外多いのではないのでしょうか。

グループ討論は同友会の大きな魅力であり、会社の会議や研修をはじめ様々な場面で活かれます。グループ討論のコツをつかめば、社内における問題の本質を掘り事ができ、社員とのコミュニケーションレベルをアップする事ができるようになります。そして組織の活性化につながります。ぜひ、この機会に参加して社内の活性化につなげましょう。

# 第4回理事会報告

◆日時:2018年8月8日(水)午後3時~午後5時 ◆会場:山形ビッグウイング ◆議長:齋藤専務理事  
◆出席者:(敬称略)川合、西塔、菅原、齋藤、小川、佐藤(啓)、阿部(秀)、武内、八代、板垣、佐藤(淳)、志田、松岡、大久保、笹林、事務局 矢作、後藤、芳賀

## ■開会挨拶

西塔代表理事が「同友会で勉強し自社に生かし、その成果を会に還すという学びのサイクルがある。今回の役員研修会もそうだが、学ぶだけでなく、実践して企業に生かす。そこからつながって会員を励まし、悩みを持つ経営者に一筋の光をもたらす。目標達成につながる理事会としたい」と述べました。

## ■学習会

大久保理事から、山形県の人口問題を踏まえた建築資材業界の現状と課題、その中で自社の取り組みについて報告がありました。

## ■報告事項

- 1)各支部・委員会・部会よりの報告  
支部長・委員長・部会長より7月の活動報告と8月の予定について報告がありました。
- 2)西日本豪雨災害の義援金について  
矢作事務局長より現中同協の義援金募集が8月末までであることから、山形同友会でも8月末までとすること、現在186,000円の協力を頂いていることが報告されました。
- 3)2018年度7月次決算報告(矢作事務局長)

■承認事項(入・退会承認) 入会1名 8月8日現在403名

## ■討議事項

### 議題1:役員研修会について

タイムスケジュールと座長に小川氏、室長に志田氏とする役割分担、グループ討論テーマが決まりました。

#### 【討論テーマ】

- ①労使見解を実践し、体質の強い企業づくりに取り組んでいますか?
- ②役員企業として、自社内でどう実践し、会内で活動していきますか?

### 議題2:準会員制度について

菅原代表理事が、経営者と社員と一緒に同友会がめざす企業づくりを進めるために二人目以降の会員制度を設けることが提案され承認されました。

### 議題3:第15回経営研究集会について

実行委員長の松岡理事が開催要項(案)をもとに提案し、日程・会場・開催目的・記念講演の講師が承認され、分科会の一つは青年部キックオフ例会として検討することになりました。

- 日時:11月27日(火)
- 会場:ホテルメトロポリタン山形
- 開催目的

①日本、地方の人口、労働人口の減少。超高齢化社会、少子化社会の問題を国任せだけではなく、採用環境が厳しくなる中で、私たち中小企業の経営の現状を再確認し、私たちにできる人口減少に対応できる経営の在り方、今後の課題を見つけ出す機会とする。

②働き方改革の時代。労働基準法の改定により働き方が大きく変わる時です。中小企業として自社の就業規則、採用方法や社内教育などを活かすための組織づくりを考える機会とする。

③IT、AI時代の生き方。止めることのできない地域マーケットの縮小を、事業継承・永続経営を考えながら地域内マーケットと地域外マーケット戦略を考え、未来に向けたビジネスモデル・ネットワークの可能性を考える機会とする。

### 議題4:組織委員会より

菅原代表理事が各支部目標設定はされているが、達成のために組織委員会のサポートについて話し合ったことが報告され、佐藤(淳)理事からは

青年部の設立目的、会内外の準備委員、今後の予定の提案があり承認されました。

### 議題5:第46回青全交参加目標について

西塔代表理事より3名の参加目標が提案され、承認しました。

- 日時:11月29日(木)13:00~30日(金)12:00
- メイン会場:ロワジールホテル&スパタワー那覇

### 議題6:女性部10周年記念の会

笹林理事より開催要項の説明があり、当日の設営などの協力依頼がありました。

- 日時:10月17日(水)13:30~17:00
- 会場:ホテルメトロポリタン山形 4階 霞城
- 参加費:2,500円

## ■その他

- 1)親睦ゴルフコンペ  
11月10日(土)にニューブラッサムガーデンゴルフクラブにて開かれることが決まりました。
- 2)山形自然エネルギーネットワーク総会への後援の依頼  
エネルギーシフトに取り組む同友会としての観点から後援することが決まりました。
- 3)今後の予定

2018組織強化・会員増強全国交流会	8月24日(金)東京 西塔・菅原
第23期経営指針をつくる会発表会	8月25日(土)ホテルシンフォニー
【中小企業 小規模事業者人手不足対応ガイドライン】活用セミナー	8月27日(月)山形県産業創造支援センター
役員研修会 第1講	8月28日(火)14:00山形テルサ
首都圏大学職業指導研究会との情報交換会	8月30日(木)18:00仙台
北海道東北ブロック支部長地区長交流会	9月6日(木)~7日(金)青森
中同協・女性部連絡会	9月6日(木)~7日(金)東京
第6回人を生かす経営全国交流会	9月13日(木)~14日(金)宮崎
中同協・経営労働委員会	9月14日(金)宮崎
中同協・社員教育委員会	9月14日(金)宮崎
中同協・共同求人委員会	9月14日(金)宮崎
中同協・役員研修会	9月20日(木)~21日(金)徳島
4委員会合同例会	9月20日(木)山形テルサ
山形大学学内企業説明会	9月25日(火)山形大学
中同協 第2回幹事会	10月2日(火)東京
新入社員フォローアップ研修	10月4日(木)寒河江市技術交流プラザ
幹部社員研修 第2講	10月9日(火)山形ビッグウイング
合同企業説明会	10月11日(木)山形テルサ
女性部10周年記念の会	10月17日(水)ホテルメトロポリタン山形
求人に関する学習会	10月19日(金)ヤマコーホール
憲章・条例学習会	10月26日(金)山形県産業創造支援センター
役員研修会 第2講	10月30日(火)14:00山形テルサ

### 4)第5回理事会日程

- 日時:9月12日(水)午後3時~午後5時
- 会場:山形県産業創造支援センター

## ■閉会挨拶(菅原代表理事)



## ◆ 成田 千津子氏

(株)FPパートナー  
保険代理業  
山形支部

### 社名・役職変更

### 役職変更

### お詫び

●加藤 安俊氏 タイヤショップ出羽 代表⇒(株)タイヤショップ出羽 代表取締役 山形支部

●長谷川 吉之介氏 (株)マルタニ 常務取締役⇒専務取締役 山形支部

8月号でお知らせしました、新会員 (株)ウィザード 代表取締役 新井俊太郎氏の漢字が間違っておりました。正しくは 荒井俊太郎 氏です。お詫び申し上げます。

同友やまがた9月号 (2018年9月1日発行/通巻306号)



“知り合い、学び合い、援け合い”  
山形県中小企業家同友会

〒990-2461 山形市南館三丁目26-26 スタジオ・アヴァン 102号  
TEL(023)645-5500 FAX(023)645-5583  
URL:http://yamagata.doyu.jp/ E-mail:info@yamagata-doyu.jp



## 【社員共育委員会】 「営業の教育と管理」について

社員共育委員会は毎月第3水曜日に委員会を事務局にて開催しています。

その中で「学習会」という時間をとり、決められた報告者が問題提起をし、討論しています。

先々月はY社長から、「営業の教育と管理」について問題提起をして頂きました。

.....

「途中で同じ業界で働いていた女性営業を採用しました。

同じ業界と言っても取り扱う商材が違う事もあり中々成果が出ません。

業務日報で行動を確認したり、同行訪問等しているのですがそれでも成果が出なく、本当に営業活動をしているのかどうかさえ不安になってしまいます。

最近の日報では良い情報を掴んできている報告があるのですがクロージングがことごとくうまくいきません。

営業の教育と管理についてどうすればいいのでしょうか？」

という問題提起がなされました。

メンバーからは、

「成果が出なくて辛くなって来ているのでは」

「辛くてつい嘘の日報を提出しているのでは」

「嘘がつけない営業活動の管理が必要なのでは」

「前職の顧客訪問ではなく、既存顧客の訪問から教育したほうが良かったのでは？」

「日報はどんな風な内容ですか？」

など、様々な意見が出ました。

こちらの会社では業務日報が「行動管理型」でした。

●時●分～●時●分 ●●株式会社訪問 商談 商談内容

という一日の行動を報告するもので、報告の項目（取得しなければならない情報の項目）が整理されていませんでした。

メンバー意見として

「この報告書では報告者がいかようにも書けるし、経営者が必要とする情報の項目が整理されていないので読むほうも市場・顧客がどのような状況なのかがわからないのでは？」

と討論になり、「行動管理型」の日報から「個社別情報管理型」日報に変えて、教育と管理をしてはどうかというお話になりました。

営業は社外で活動する為に「自己責任」「自己管理」が重要になりますが、営業活動を管理する「仕組み」と合わせて組織全体をマネジメントし、目標達成へと導く必要があること学びました。

.....

裏面へ続く→

## 【社員共育委員会 Part.2】 「副業・兼業」について

先月は平成 30 年 1 月に厚生労働省から出された「副業・兼業のガイドライン」について討論しました。

.....

参加者は事前に厚生労働省のサイトで「副業・兼業のガイドライン」「モデル就業規則」を確認して参加しました。

参加者からは、

「自社でも隠れてアルバイトをしていた社員を、話し合いの上なあなあで許可した例がある。いずれ制度整備が必要だと感じる」

「さくらんぼ収穫の手伝い、手芸品などの個人通販などは現状でも副業として一般的だがどう扱うのか判断が必要になる」

「管理の難しさが想像できる。また、働き方改革との矛盾も気になる。収入の足しとしての副業という考え方は同友会型企业とも大きく異なるのでは」

「パソコン一つでも仕事できるような業態は副業でもスキルを活かしやすい。影響の大きい業態があると思う」

「副業で疲れ果て、本業で事故、というケースも考えられ、労務管理責任の範囲など課題があるのではないか」

「最低賃金で週一 8h の副業で月収が 2 万円以上上がる。本業での役職昇給よりこちらの方が所得上昇につながり、労働者としてのメリットは大きいのではないか。山形は世帯収入が低く、仕方がない部分もある」

「金より休み、という社員も多く、人によりけりではないか」

「会社への帰属意識が薄れていく。経営者の喜びである、この会社で頑張ったおかげで〇〇できたという社員の声が薄れていくのはさみしい。その中で本業に選ばれる企業は人間尊重経営をできる会社にさらに絞られていくのではないか」

「他社と人のやり取りをする際など、副業規程を利用してより柔軟に連携が取れるのではないか。可能性も見える制度」

などの意見がありました。

副業・兼業のメリット労働者側、雇用側共にありますが、留意点もあります。

運用の難しさはありますが大きな可能性もあると感じます。

厚生労働省のサイトに「副業・兼業のガイドライン」がありますので是非一度見てください。

.....

こんな学習会をしています。

自社の経営課題をお持ちになってゲスト参加してみませんか？

【次回社員共育委員会】

■日 時：9月19日（水）17:00～19:30（基本的に毎月第3水曜日に開催しています）

■会 場：山形同友会事務局（山形市南館 3-26-26 スタジオ・アヴァン 102 電話 023-645-5500）

※同友会事務局に電話1本でOK！ゲスト参加お待ちしております。